

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の運営理念は、開設時に作られたものであり、地域密着型サービスの地域の中で利用者を支えて行くサービスの運営理念を付け加える必要があると思われます。	○	現在サービスを受けている、利用者、ご家族、地域の方々等の意見を取り入れ、職員と共に運営理念をつくり上げる必要があります。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレートの裏には、運営理念を表示して、日々理念の確認に職員が努めている。理念の重要性について、今期はスタッフ研修を行い、理念の共有と実践に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスとしての理念の取り入れはまだされておらず、今後検討していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学者に対して、また利用申し込みや入居の際の説明の折に運営理念について説明し、理解を求めています。後家族への広報誌や地域向けの回覧に運営理念の趣旨を記事にして紹介するなど、継続的に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員、利用者と近所の方々と挨拶をしたり、お話をしたりしている。広報誌を通じ、より気軽にグループホームあさひに立ち寄っていただけるよう呼びかけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動や廃品回収に職員や入居者が協力している。事業所の行事にも地域の方の参加を呼びかけている。	○	地域との交流はまだ可能性が残されているので、町内の枠に囚われず、地域との交流のし方を模索している。事業所で独自の地域参加型の行事なども今後検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等に暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員は利用者への支援を基盤にしているため、地域の高齢者の暮らしに力を活かした話し合いはなされていないが、今後地域貢献に取り組みたいと思います。	○	地域の高齢者との共通点を事業所として考えて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、評価の確認を行なっている。また、外部評価の後には、職員全員が改善点を認識し、改善に努めているが、具体的に目標を持って取り組んでいるとはいえない。	○	今後は自己評価系の職員が中心となり、改善目標を立て、計画的に職員全員で取り組む予定である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険課や在宅支援センター、母体の病院を中心に、サービスの質の向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの案件や要請事項は多くないが、関わり合いは保たれており、要請について受託している。お年寄り向けの料理のレシピを地元の栄養士会を通じて、市の広報誌に定期的に紹介している。	○	市の担当者との連絡を密にとり、さらに意見交換や情報交換を行い介護サービスの向上に繋げていきたい。またこちらからも、積極的に協力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度について、順次研修等に参加している。また、利用者の中には実際に司法書士を利用している方がいて、今後も必要に応じて活用、支援していきたい。	○	権利擁護は高度で専門的な内容も含まれているので、職員全員が理解を深める努力を続けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマにした学習会は行なっていないが、施設内研修の中に取り入れられている。	○	機会あるごとに、管理者が意識的に言葉でスタッフに伝えるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族と施設利用について説明をしています。また、入居後も定期的に、ご本人の状況説明や文書での報告を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情を外部に表せる機会を特に設定しているわけではありませんが、日常のコミュニケーションを通じて、利用者の要望、苦情等を集約し、解消できるようにしております。 また、事業所だけで解決できない問題については、母体法人と相談しながら対応しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には面会の際に、また文書で定期的に日常生活ぶりや健康状態、職員の異動など必要な事項をお伝えしている。 金銭管理は現金出納帳を使用し、ご家族には定期的に確認していただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の不満は会議を開いて検討し、事業所で解決できない案件は、法人との連携で対応している。 事業所内(玄関)に意見箱を設置し、家族等の意見を運営に反映させるよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者クラス(管理者、介護支援専門員、計画作成担当者)の会議を開催し、職員の意見や提案等も議題として取り上げている。	○ 運営者や管理者が、職員の意見や提案を会議などで直接聴ける機会を設けるように取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整は行えていません。	○ 職員人数の対応が不十分であるため、勤務の調整にどうしても偏りがあります。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしているが、利用者には充分理解されているとはいえない。	○ 職員の異動により、不安感を持ったり、不穏になる利用者もあるので、突然異動を行なうのではなく、時間的な余裕を持って受け入れていただくような工夫を考えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会が定期的(毎月)に実施されているが、勤務ローテーションの事情で参加が難しい。事業所でも医療職の職員を講師に研修の機会を設け、職員の知識能力の向上を進めている。	○ 職員の経験やレベルに応じたトレーニングの実施が課題になっている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者団体(北海道グループホーム協議会)を中心とした相互訪問や勉強会、研修が行なわれている。相互訪問は、利用者への配慮が優先されるので実際には活発に行なわれてない。	○ 同業者とのネットワーク作りに取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人役員との面談が実施され、職員は現場の現状や介護のストレスなどを伝えることができる。また、業務改善委員会では、職員の働きやすい環境についても検討されている。	○ 今後は管理者と職員の面談などを考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個人の努力や実績が評価されるよう、法人就業規則に定められている。	○ 更に職員個人が働き甲斐のある職場をつくりあげるよう、取り組んで行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には介護支援専門員が、自宅訪問を行い、本人やご家族が困っている事の情報を聴く機会を設けている。	○ すぐに利用したいという希望が多いこともあって、実際には本人との面談回数は少ない。信頼関係を築くためにも面談回数を増やしていく取り組みを考えたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には介護支援専門員が、自宅訪問を行い、本人やご家族が困っている事の情報を聴く機会を設けている。	○ インテークの段階で、十分情報が収集できるよう、機会を増やして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に受療が必要な場合は、必要な通院の支援を行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等に見学や体験利用をお勧めし、実施しています。	○	入居前の施設体験の機会を増やして、本人の安心と納得をした上でのサービスの開始に繋がりたい。帰宅願望が強い場合は、特に配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援する際、介護という言葉の枠にとらわれず、お互い生活を共にすることを基本に、一緒に食事を作り、掃除をし、レクリエーションや食事での会話を楽しみ、喜怒哀楽を分かち合えるような関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時に、利用者の近況をお伝えしたり、ご家族からの利用者に関わる情報の提供もあり、良好な関係が継続するように努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、利用者との生活の中で、新たな課題発生等、ご家族に対して説明や相談、意見を求めるなどして、一緒に利用者本人の支援に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの場所へ出向いたり、馴染みの人からの情報を大切にし、利用者本人の希望に基づいて逢う機会を設定するなどの支援を行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が常に入居者同士のコミュニケーションを意識し、困難な場合は補う役割を担って、より良い関係作りにつとめています。 (余暇活動や家事参加など様々な機会を通じて、お互いを認め支え合う関係をつくっています。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了してからも、本人や家族等が訪ねてこられたり互いに行き来できる継続的なかわりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦、生活記録、センター方式の書式を活用し、利用者一人ひとりの意向をその都度確認しながら支援を行っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員の担当制を実施して、職員間での情報の共有を図り、センター方式を活用して可能な限り把握するよう努めている。(入居前に面接によって生活歴、生活環境、暮らし方、サービスの利用などの情報を得ています。)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活において、体調チェックシート、生活記録、活動記録を活用し、職員間の申し送りなどで心身状況や有する能力の現状を総合的に把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的、変化のあった時には介護支援専門員の監督の下にモニタリングを行い、話し合いにより家族との連絡も密に行っており、適時に介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化があった時など必要に応じて介護計画の見直しを関係者、本人との話し合いによって行っており、現状に即した計画に更新しています。(認知症の進行については、ご家族に理解をしていただきながら関係者と話し合い、現状に即した計画作りに努めています。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を多方面から記録整理し、職員が情報を共有できるようにになっており、モニタリングや計画の見直しに活用されています。	○	今後更に個別ケアやチームケアに繋がるよう検討を重ねたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に配慮し、可能な限り多種多様な要望にも柔軟に対応できるよう、手配連携に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	開設時より、周辺地域や諸施設と交流、協力関係を持つようにしている。グループホーム便りを配布したり、ボランティア、実習生の受入も行っています。	○	ボランティアの充実に向けて取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現段階では要望はありません。ご本人の意向や必要に応じて柔軟に対応しています。(将来的には検討して行きたい。)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター長には運営推進委員になっていただき、施設運営に関して意見をいただいています。(権利擁護についても今後協力を得ながら勉強して行きたい。)		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師が二週ごとに往診し、日常の健康管理を行っている。また、希望により他の医療機関での受診受療も可能です。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体法人の精神科医の協力が得られる体制があります。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体法人との連携により、担当の看護師と健康管理や医療活用の支援が可能です。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	周辺地域の病院を含めて、諸施設と開設当初から情報交換を行っており、必要な協力が得られるよう連携がとれています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当施設では重度化に至る前に、家族等に希望や要望を確認している。法人が病院であるので、本人の病状の変化について、療養上の方針なども繰り返し家族等に確認し、職員間でも共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは現在行っていません。重度化する前に、ご家族と話し合い、また主治医からご家族に報告していただいています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用開始前に見学や施設体験を実施している。家族等からは、本人の生活歴や趣味嗜好などの情報提供をいただいている。居室には、本人なじみの家具や生活用品の持込を勧めている。	○	帰宅願望強い利用者様の気持ちを理解し、適切な対応が出来るように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や失禁による更衣等声掛けの時は、周りの方にはわからないように配慮しています。また、記録類は、利用者の目に付かないように注意して管理しています。(職員同士の会話にもプライバシーの確保を徹底しています。)	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人からの希望や訴えがある際には、よく傾聴するように対応している。言語によるコミュニケーションが困難な場合は、非言語的コミュニケーションによって自己決定につながるように支援している。	○ ①認知症の進行によりコミュニケーション困難②性格的に自分の意思を表せないなどの場合は、家族等の協力を得て希望に添った支援に取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩などの支援も可能な限り、希望に応じて実施しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの洋服を身に着けていただき、季節ごとに職員と一緒に衣替えを行っている。 入居前からの行きつけの美容室が利用できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて調理や盛り付け配膳片付けに参加していただいています。食事形態への配慮や、味付けにも嗜好を反映するようにしています。食事中は相応しい音楽を流し、落ち着いた雰囲気楽しんでいただくようにしています。季節毎の行事食や誕生日のお祝い膳なども取り入れています。(献立がマンネリ化しないように気を配っています。)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限り嗜好に合った食事が提供できるようにしています。お酒やタバコも量や時間、喫煙場所などを考えて楽しんでいただいています。 (入居時に嗜好調査をして了解を得ながら支援しています。)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して、定期的な声掛けによって自力排泄を促したり、プライバシーに配慮しながら排泄の支援を行っています。 (便秘や下痢など、体調面にも気を配りながら失敗の無い排泄支援に心がけています。)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ちよく入浴していただくように、ご自分のタオルなどの用品を使用いただいています。一人ひとりの希望や能力に応じて洗身洗髪の介助も行っており、健康状態に合わせ、シャワー浴、清拭なども実施している。	○	職員の勤務体制、職員配置やローテーションの関係で、入浴日や時間帯が本人の希望通りになっていないので、可能な限り本人の希望に添えるように考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入床時間や睡眠時間、昼寝も各人の生活リズムを尊重しています。寝具はご自分のものを使用いただいています。また、夜間安眠できるよう、日中の活動を支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、日々のコミュニケーションからその方の特性や希望により、家事参加や畑仕事など施設の中で役割を持ち生活できるよう支援している。 定期的の実施している外食や買い物、ドライブ、美容室など、生活に変化をつけて気晴らしのできる環境を提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の能力に応じて、可能な場合は現金を所持して自己管理をしていただいています。できない場合は、承諾を得ながらお小遣いの管理を代行しています。(生活の場面で、自分でお金を使う機会が持てるように支援することを考えています。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や日光浴で、季節の移り変わりや外気の寒暖を肌で感じていただくよう支援しています。また、ドライブで普段とは違う景色を楽しんでいただけるよう支援しています。 (協力医療機関や施設の行事への参加、草取りなどの地域活動を通じて外出の機会に支援しています。)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月市内外へ出掛け、季節毎に花を觀賞したり、動物や紅葉を見たりされています。 (希望によりご家族も参加されますが、更に参加しやすいように取り組んで行く事を検討しています。)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話でご家族とお話をさせていただけるように、電話を掛けたり取次いだりしています。手紙のやり取りも自由にさせていただき、依頼により代筆をすることもあります。(季節毎の挨拶状や定期的な手紙やハガキなどもご自分で出す事ができるように支援して行きたい。)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人側から希望されない場合を除き、訪問される方がいつでも気軽に訪問していただけるように対応しています。(来訪者が居心地良く来ていただけるよう、職員は笑顔で対応するよう心がけています。)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを職員は全員認識している。スタッフ研修でも身体拘束についての勉強を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠をしておりますが、安全上外に出る場合スイッチを押す操作が必要です。	○	ご家族には了解を得ながら実施しておりますが、今後は職員が見守る体制で、安全対策ができるように検討したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全に生活できるよう、全職員で見守り声掛けにより危険回避に努めている。 就寝後は定時の居室巡視を行い、所在確認と様子の把握を行っている。	○	宿直制であるため、夜間帯は利用者の安全確認が行き届かない面もある。勤務体制そのものの見直しを検討していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性の高いものについては、了解を得て保管させていただいております。業務改善委員会が中心になって危険防止について話し合いを継続しています。 また、「支援のための安全対策と改善」をテーマにして、ハザードマップを作成し、活用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練の実施。全職員が救急救命講習を受講。消火器訓練も法人の訓練に参加。 事故(ヒヤリハット)報告書閲覧により情報を共有し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故(ヒヤリハット)報告書の分析を実施して事故防止対策の充実をはかるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が救命講習を受け、応急手当の訓練を行っています。(必要に応じてビデオ学習も取り入れて実施しています。)		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っています。消火訓練は母体法人の訓練に参加しています。(今後地域の方々の協力が得られるよう検討したい。)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族には健康状況を文章で報告しているほか、面会の折にもお伝えしています。状況変化時には速やかに電話連絡を行っています。職員に対してモニタリングを行って対応策を話し合っています。	○	モニタリング会議も個別的になる事が多いので、多人数で行う会議になれるよう努力したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時にバイタル測定を実施し、体調に変化があれば、職員間で申し送りを行っている。必要な場合は、主治医または担当看護師に連絡して、早期の対応に努めている。本人の言動や表情などから発せられるサインを見逃さないように、日々見守りしており、職員は記録をとって情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬剤の効能効果、副作用、注意事項の説明書を個人ファイルし、いつでも確認できるようにしています。各人の病気を理解し、変化があれば主治医への報告、投薬内容が変わった場合は全職員が把握できるよう申し送りを徹底している。	○	内服薬を飲んだ確認は徹底しているつもりでも、飲み残す場合があるので、対策を検討して行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質が多く含まれた食事を提供することによって便秘対策としています。また、個別に水分の出納記録を実施しています。必要に応じて牛乳、野菜ジュースの摂取、体力に応じた運動などの支援を行っています。(厳しい状況が継続する場合は主治医に相談するなど、指		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを声掛け介助支援をしている。週3回義歯専用の洗浄剤を使用し、清潔を保っている。口腔ケア用品も定期的に消毒している。必要に応じてかかり付けの歯科医受診に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の摂取量に応じて盛り付けし、野菜類を中心に肉魚をバランス良く摂取できるよう心がけています。また薄めの味付けにするようにもしています。 一人ひとりの水分摂取表を活用して、必要な水分が摂取できているかチェックしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所が実施する講習を受講し、感染予防マニュアルに従って対応できるように取り組んでいる。 ①来訪者には消毒用アルコールの使用を協力依頼 ②食前に塩素系洗剤に浸したおしぼりを使用 ③台所用品の消毒、手すりドアノブ等の消毒		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は塩素消毒を行っています。 賞味期限の来た食材は処分し、調理した食品はその日のうちに使い切っています。畑で季節の野菜を作り、新鮮で安全な野菜を使用しています。 また、安全を考慮してできるだけ国産食材の使用に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や駐車場、花壇に木や花を植えたり、植木鉢を置いたりし、家庭的な雰囲気作りをしています。ベンチを置いて近所や家族の方も寛げるようにしています。(近所の方の頻繁な出入りはありませんが、散歩などの時にご挨拶や会話をして親しみやすくしたいだけよう心がけています。)		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すため、行事や節句の飾りつけをし、居間や廊下などの共有空間に飾り付けをしています。また、活け花を常時飾るようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や小上り、食堂、廊下を利用しながら自由に過ごせる空間になっています。共用空間は十分なスペースがあり、利用者は思い思いに好きな場所で過ごすことができます。	○	居間で過ごす場合、自分や他人の席に執着したりこだわった考え方を持つ利用者もいるので、居間のレイアウトや支援の方法などに工夫を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品を持ってきていただき、安心してすごしていただけるようにしています。(使用しなくなったものはご家族と相談の上処分引き取っていただくなど、混乱への配慮をしています。)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時換気を行い、過ごしやすい温度と湿度を保つよう配慮しています。冬季は暖房の使用により乾燥するため、濡れタオルや加湿器を利用して一定の湿度を保つように取り組んでいます。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便器や洗面台の高さの調節の実施、必要な場所に手摺を設置するなど安全に生活できる工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの人格やプライドを尊重し、見守りながらわかる力を活かせるようさりげない介助、誘導をしています。(混乱や失敗があっても職員はコミュニケーションを大切にして見守り介助しています。)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭や玄関にベンチを設置し、気軽に過ごすことができます。中庭に花畑や野菜畑があり、野菜を採ったり花を摘んだり楽しむことができます。また、芝生にパークゴルフのホールを切っているため、パークゴルフを楽しむこともできます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)